

『根岸競馬場と自邸にみる建築家 モーガンの和風デザイン』

水沼淑子（関東学院大学名誉教授・公益社団
法人横浜歴史資産調査会専門委員）

建築家Jay H.モーガン設計の根岸競馬場一等馬見所が、2025年1月22日付で横浜市認定歴史的建造物に認定された。長年先行きが心配されていた建造物だったが、保存活用に大きく歩を踏み出した。認定発表翌日には様々なメディアがこのニュースを報じ、注目度の高さを伺わせることとなった。

ところで今から約40年前1987年に日本建築学会は根岸競馬場馬見所の保存要望書を提出した。二等馬見所の解体が決定したことから、一等馬見所と一体的価値があるとし、保存し建築博物館としての利活用を提言した。しかし二等馬見所は翌年に解体され、一等馬見所だけが今日まで生き延びたことになる。

なぜ、根岸競馬場馬見所の建築がそれほどまでに注目されるのか。認定の発表にはその価値として3点が明記されている。すなわち開港地横浜の近代を証する歴史的価値、現存最古の馬見所建築としての建築史的価値、横浜の歴史的景観を形成する建造物としての景観的価値である。

更に付け加えるならば、馬見所を設計した建築家Jay H.モーガンの作品としての価値も注目される。モーガンは1920年、アメリカの大手建設会社フラー会社の設計技師として来日、関東大震災後も日本に残り多くの建築を手掛けた。作品は圧倒的に横浜に多く、その中でも根岸競馬場の建築はモーガンの代表作である。一等馬見所、二等馬見所と順次手掛け、二等馬見所増築も手がけている。その他馬主食堂（バンザイハウス）、馬券販売所などおよそすべての競馬場の施設を手掛けた。

一等馬見所は塔屋やスタンドの意匠が特徴だが、ここでは今は失われてしまった貴賓室の意匠に注目したい。図面に「EMPEROR ROOM」と記載された貴賓室は、鉄骨造の巨大な天蓋屋根の上部中央に位置した。天井は格天井で格間には鳳凰が描かれる。計画段階では折上天井の案も検討されており、格式の高い和風意匠が考案されていた。関東大震災前には皇太子や皇族が根岸競馬場を訪れており、貴賓室の意匠はこうした利用を念頭に置いたものだったのだろう。また、モーガン自身も和風意匠には多大な関心を持



1月22日付で認定歴史的建造物に認定された根岸競馬場一等馬見所（撮影/米山淳一）

っていた。

モーガン逝去に際しての雑誌「日本建築士」掲載の追悼文には、「君が我が国に同情深く恐らく永住のつもりでおられた結果は君が晩年の作品の上にも現れて」とあり、また、略歴欄にもモーガンが日本の風土や伝統を好んでいたことが記されていた。

ところで、2007年に焼損したモーガン自邸はモーガンの和風への関心が素直に表現されている。自邸は1931年頃横浜市と藤沢市のほぼ市境に位置する藤沢市大鋸の広大な敷地の中に建築された。居間には暖炉と床の間が並び、居間、食堂、縁側すべて板床椅子座の居室だが、真壁で仕上げ長押を打つ。その他飾金具を随所に用いるなど、和風を意識した意匠が展開し他に例を見ない和洋折衷の住宅だった。

モーガンにとって和風建築は魅力的な存在だったに違いない。モーガンが建築を学んだ19世紀末のアメリカではジャポニズムが流行しており、家族を残して来日した契機的一端には日本に対する強い好奇心があったに違いない。

根岸競馬場の建築は、実はモーガンの和風建築への関心を教えてくれる建築であり、モーガンが思いのままに和風趣味を実現した自邸の意義を改めて考えさせてくれる存在である。和風意匠の自邸室内を再度見ることができると期待される。



格天井の格間に鳳凰が描かれている貴賓室
（『横浜建築家列伝』（2009年横浜都市発展記念館発行）より）



暖炉と床の間が隣接して置かれるモーガン邸居間

モーガン建築の魅力 — 日本各地のモーガン作品 —

水沼淑子（関東学院大学名誉教授・公益社団法人横浜歴史資産調査会専門委員）

建築家Jay H.モーガンの作品は根岸競馬場一等馬見所をはじめ横浜に多く残る。しかし、実はよく知られていないものの、北は仙台から南は松山まで、モーガンの作品は日本各地に残る。各地のモーガン作品を紹介しながら、その魅力を改めて考えてみたい。

まずは仙台の東北学院大学土樋キャンパス。正門、ラーハウザー記念東北学院礼拝堂、東北学院大学本館とモーガン作品が複数残る。正門（1926年竣工）は三角アーチをもつクラシカルな二基のRC造門型構造物を一对とし、洗い出し仕上げに目地を切り石造風とする。本館（旧専門部校舎・1926年竣工）はRC造3階建てでモーガンの学校建築にしばしば見られるカレッジゴシックスタイルの質実な建築。ラーハウザー記念礼拝堂（1932年竣工）もRC造で、近年修復された英国製のステンドグラスも美しいネオゴシックの礼拝堂である。いずれも登録有形文化財であり、モーガン作品が一箇所にこれだけ現存するのは、ここ、東北学院大学だけであり貴重である。仙台では他に尚綱女学院の校舎も手掛けたが現存しない。

次に軽井沢。プルナー&モンド社支配人のW・R・デビンのスパニッシュ様式の別荘がある。白壁にオレンジ色のスペイン瓦が映え、別荘らしく開放的なベランダをもつ。

東京と横浜を通り越し西へ進もう。神戸ではフラー会社時代にクレセントビル（1921年竣工）、チャータード銀行神戸支店（1938年竣工）を手掛けた。前者は現存せず、モーガン逝去後に竣工した後者は商業ビルとして現在も活用され、神戸旧居留地の中で存在感を示す。モーガンが多く手がけた銀行建築唯一の生き残りである。

次は四国の松山。松山城内東側に位置するのは松山東雲中学・高等学校（旧松山女学校）の正門（1928年竣工）である。松山城という環境に相応しい建築を望まれ、結果として小規模ながら櫓門風の建築が誕生した。その他の校舎群も設計しており、いずれも外壁を真壁とし、寄棟や入母屋の瓦屋根をもつ校舎で、モーガンの学校建築の中では異色だった。現存するのは門のみである。

最後に東京、横浜のモーガン作品を見てみたい。東京に現存するのは立教大学の予科校舎として建てられた現4号館（1937年竣工）のみである。その他、フラー会社の技師として関与した日本石油ビル（1922年竣工）、丸ビル（1923年竣工）、日本郵船ビル（1923年竣工）、設計を担当した立憲政友会本部（1923年竣工）はいずれも現存しない。

根岸競馬場もある横浜はやはりモーガン建築の宝庫である。現存する作品としては、横浜市指定文化財111番館（旧ラフィン邸・1926年竣工）。港の見える丘公園の一角に建ち、正面の三連アーチが外観を印象づけるスパニッシュ様式の西洋館である。同じく山



ラーハウザー記念礼拝堂



旧ラフィン邸、現111番館
（写真/米山淳一）



旧チャータード銀行神戸支店

松山東雲中学・高等学校正門



手に建つベリック・ホール（旧ベリック邸・1930年竣工）はスパニッシュ瓦、正面の三連アーチ、壁泉、アイアンワークなど日本におけるスパニッシュ様式の見本のような西洋館である。そのすぐ近く、山手本通り沿いに位置する山手聖公会聖堂（1931年竣工）はRC造の教会建築だが外壁に大谷石を貼り、中世城郭風の意匠を採用する。外国人墓地正門もモーガン設計とされる。

その他、アメリカ領事館やYC&ACのクラブハウス、ジェネラル・ホスピタル、ユニオンビル、香港上海銀行支店などオフィスビルも多く手掛けたが、いずれも現存しない。関東学院中学校高等学校内にはモーガン設計の校舎が2棟あったが両者とも失われてしまった。

モーガンはわずか17年の間に実に多くの建築を手掛けた。そのスタイルは城郭風建築から西洋の様式建築、スパニッシュと実に多彩である。器用な建築家であったとともに、おそらく仕事の多くは施主との個人的なつながりがもたらしたものであり、施主の意向を汲みながら用途に合致した意匠を採用した結果、作風はバラエティに飛んだ。

では、モーガン自身は日本でどのような建築を造りたかったのだろう。その答えを見つける鍵は、自らの好みを直接反映させた自邸にあると考えられる。自邸こそ、モーガン建築の魅力を語る最良の作品であるといえるだろう。

みんなで挑む、焼失したモーガン邸の再建プロジェクト

米山淳一 公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事

◎はじめに

横浜ゆかりの外国人建築家の一人、J.H.モーガン(以下、モーガン)は、横浜で多くの建築事務所を設け、多くの建物を設計している。モーガンは、大正期に東京の丸の内ビルジグの設計に携わるべく、来日。その後、東京、横浜、各地で活躍し作品を残している。

モーガンの事務所や住まいは、愛する横浜である。結婚を機に新たに住居を構えるべく国道一号線沿いで物件を探しており、偶然、海や江ノ島が見える高台に出会った。ところがそこは、今の横浜市戸塚区を約500m行き過ぎた藤沢市の大鋸。箱根駅伝の難所で知られる「遊行寺」の急坂に近い片瀬川の河岸段丘の上。そこに2000坪近い土地を購入、約200平米のスパニッシュスタイルの自邸を建てた。元通訳で、婦人のたまのさんとそのご両親の隠居屋も設け、一緒に生活が始まった。昭和7年のこと。

モーガン亡き後は、所有者が転々としたが、最後は横井英樹さん(ホテルニュージャパン・日本産業社長)が購入。奥様の別荘として長きに亘り使われてきた。しかし、日本産業は破産。国の整理回収機構が財産を押さえ、モーガン邸は、売却対象となった。

◎日本ナショナルトラスト(以下JNT)と藤沢市が取得

地元の市民運動体「旧モーガン邸を守る会」が中心となり、保存運動を展開していたが、寄付金により、JNTが藤沢市と力を合わせて取得。ところが、2007年5月、2008年1月の2度の不審火でモーガン邸を焼損した。建物を所有するJNTは、資金不足から再建を断念。藤沢市も協力せず、再建は不可能と思われたが、2021年公益社団法人横浜歴史資産調査会(以下YHG)が主体となり、再建に向けて広く多くの皆さまからご寄付を賜り、保護事業と位置づけて取り組むことになった。

◎復原ではなく、再建

YHGでは、2021年から再建に向けてモーガン邸再建委員会(委



不審火で焼け落ちた室内

員長水沼淑子)を設置、小沢朝江(東海大学教授)、大野敏(横浜国立大学教授)、菅孝能(山手総合計画会長)、NPO旧モーガン邸を守る会理事らで再建後の活用などを含めた全体計画を形にしてきた。再建としたのは利活用や建設費や建築基準法などの関係からである。再建後は、一般公開を軸とし、これまでと同じように様々なイベントを継続する。また、俣野別邸(横浜市戸塚区)、旧東海道藤沢宿の歴史的建造物等を始め吉田茂邸(大磯町)等、湘南、西湘地区の公開別荘建築との連携活用を推進してゆく。

しかし、寄付金の集まり具合、藤沢市建築指導課との調整、建築資材や人件費などの高騰で、再建工事の明確な時期は定まっていない、とにかく、今は、一円でも多くのご寄付を賜るべく激戦中。ぜひ、皆様のご寄付を心より、お待ち申し上げます。



モーガン邸の模型



コンサート in ヘリテージ 「ピアノが案内する横浜の 歴史とまち Vol.10」開催報告

「ピアノが案内する横浜の歴史とまち Vol.10」を2月1日(土)に開催いたしました。今回は第28回横浜山手芸術祭への参加でもあり、公益財団法人横浜市緑の協会の後援を得て、久しぶりのベリック・ホール、昼間の開催となりました。ピアノは後藤泉さん、ナビゲーター長谷川正英さんと、演奏と曲目と横浜にまつわるお話をいただきました。自然光の差すホールで約60名のみなさまが優雅なひとときを過ごされました。今年も(株)三陽物産さまから協賛をいただき、美味しいおみやげもお持ち帰りいただきました。



ピアノの曲目と横浜の関わりを解説中のお二人



すばらしい空間のホールは満席に

シルクロード・ネットワーク 白川郷フォーラム2024 開催報告

今年度のシルクロード・ネットワークフォーラムは、昨年の横浜フォーラムで講演をしていただいた三島敏樹さんの「白川郷合掌づくり民家は養蚕工場でもあった」というお話をうけ、ぜひ白川郷へという多くの皆様のリクエストで、白川郷での開催となりました。新庄市、千曲市、前橋市、日野市ほか、全国から約30名の参加があり盛会となりました。

3月8日は、白川村の全面的な協力を得て、白川村役場会議室でフォーラムを開催。当公益社団法人横浜歴史資産調査会の会長であり、松蔭大学観光学部長の古賀学さんの基調講演「歴史的町並みと観光振興」、白川村教育委員会文化財担当課長補佐の尾崎達也さんから開催地報告がありました。

尾崎さんのお話は「荻町重要伝統的建造物群保存地区の選定と世界遺産白川郷合掌造り集落登録までの道のりとこれから」について、村の実情や課題などを勉強させていただきました。新庄市、日野市、南砺市からの事例報告があり、宿泊先での交流会も含め有意義な情報交換がおこなわれました。

翌9日は、お天気にも恵まれ尾崎さんのご案内で集落全体の展望、重要文化財・和田家、旧田島家養蚕展示館など合掌造り集落を徒歩で見学しました。



旧田島家養蚕展示館館長の三島敏樹さんのお話を聞く参加者たち

受付中!

歴史を生かしたまちづくり相談室

老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を受付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテージ事務局まで。
TEL・FAX 045-651-1730 E-MAIL yh-info@yokohama-heritage.or.jp

『ヨコハマヘリテイジスタイル 2025 春号』 ■発行/2025年3月31日 公益社団法人横浜歴史資産調査会
■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405
TEL・FAX/045-651-1730 E-MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp
ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp/>

旧モーガン邸再建のため ご寄付のお願い

再建にあたり当公益社団では、再建委員会(委員長水沼淑子)を開催し、再建計画、事業計画等をまとめ、事業を推進中です。再建費用は、日本ナショナルトラストから引き継いだ火災保険金の一部と皆様のご寄付で賄います。目標額は1億円。現在、たくさんのご寄付を賜っております。あと一歩です。引き続き皆様のご寄付を心よりお願いいたします。(常務理事 米山淳一)

個人=5,000円(一口)・団体・企業等=100,000円(一口)
一口から何口でもありがたくお受けいたします。ご寄付いただいたみなさまのお名前は、再建した建物室内に掲出させていただきます。

*当公益社団への寄付は、税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人の場合)、法人税(法人の場合)の控除が受けられます。詳しくは事務局からご案内しますので、お問合せ下さい。

◆振込先: ゆうちょ銀行◆

口座番号: 00270-4-124271

加入者名: 公益社団法人 横浜歴史資産調査会

※「モーガン邸寄付」と明記をお願いします。

歴史を生かしたまちづくりファンド ご寄付のお願い

歴史的資産の保存活動推進のために「ファンド」を創設し、みなさまにご寄付をお願いしています。

*当公益社団法人へのご寄付は、特定公益増進法人のため税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは事務局よりご説明させていただきます。

令和6年度ご寄付をくださったみなさま。ありがとうございました。

(敬称略。単位円)

●旧モーガン邸再建のための寄付

徳田裕二	2,000	大西章夫	2,000	米山淳一	20,000
恵良隆二	5,000	ナカムライサコ	5,000	宮村七重	5,000
渡辺一男	10,000	鍋倉 薫	5,000	多田真太郎	30,000
木阪尚志	5,000	柴山直子	10,000	佐野利勝	50,000
山崎哲也	5,000	大西政司	5,000	小池宏幸	10,000
水室敦子	5,000	石黒 充	10,000	菅 建彦	10,000
小川文雄	5,000	佐藤彌右衛門	5,000	小田嶋鉄朗	3,000
佐藤里紗	10,000	中村 武	100,000	合場敬子・英樹	9,000
金木伸浩	5,000	増淵文男	20,000	村上真善	10,000
徳重淳子	10,000	後藤 治	100,000	韓国仁川研究院	20,000

●歴史を生かしたまちづくりファンドのための寄付

下間久美子	18,000	渡邊万亜弥	100,000
株式会社ロフル	100,000	株式会社 Raystar Film	100,000
NPO横浜ロケーションコーディネイト	100,000		
ランプ株式会社	50,000		

◆TOPICS

韓国仁川研究院からの訪問団

2月25日水曜日午後5時に仁川市の研究院の6名(通訳含む)が、当ヘリテイジに興味を持たれ訪問されました。さくらワークス会議室(泰生ビル5階)で約1時間30分に亘り組織、財政、事業、横浜市と連携などについてたくさんの質問を受けました。市民、行政、専門家、企業などが協働で歴史を生かしたまちづくりを行っている様子を賞賛され、モーガン邸再建にご寄付をいただきました。(米山淳一)